

日本乳幼児教育学会第29回大会

自主シンポジウム：幼児期の社会性発達を支える保育実践とは

：発達・保育研究からの示唆

【話題提供4】

子どもの社会性の育ちを支える インクルーシブ保育実践を考える ：保育者の保育観・子ども観との関連

高橋翠（たかはし みどり）

東京大学大学院教育学研究科附属

発達保育実践政策学センター（Cedep）

midorit@p.u-tokyo.ac.jp

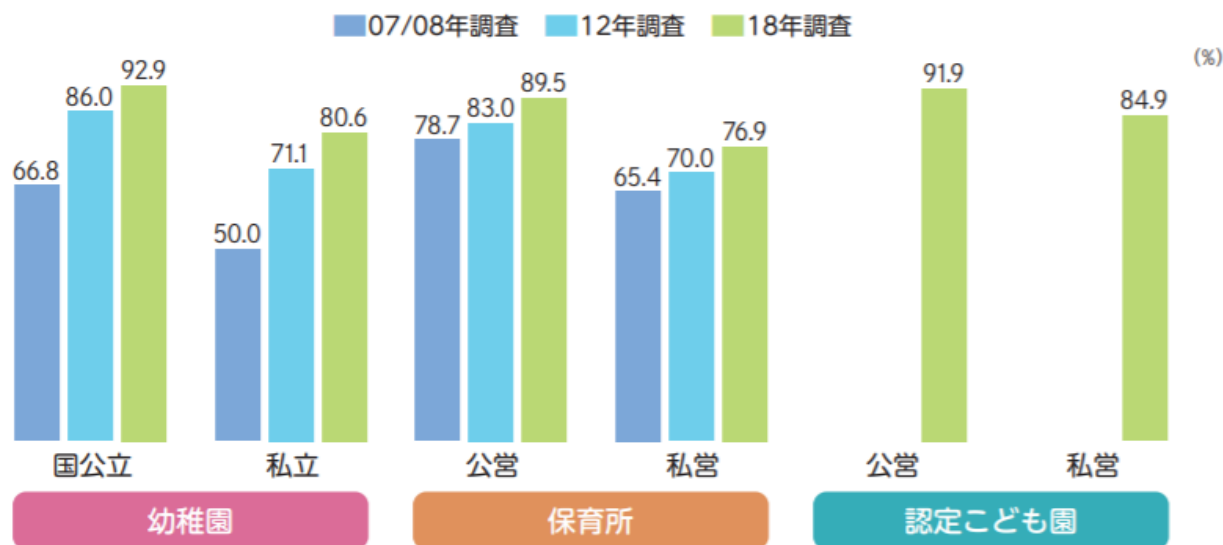


はじめに

- 特別な支援を必要とする（SEN）児の受け入れ状況
 - 保育施設（認可保育所、認定こども園、小規模保育所）のうち76.6%（全保協, 2017）

Q 貴園に、障がいのある園児や特別に支援を要する園児はいますか。

図 1-7-1 障がい・特別に支援を要する園児（経年比較）



※「いる」の%
※経年比較は幼稚園・保育所のみ

Cedep全国保育・幼児教育施設調査（2015年度）

『障がいのある子ども・特別な支援を要する子どもへの対応』が
“保育実践や運営上の課題”であるかどうかという問いへの回答

施設形態	まったく そう 思わない					あまり そう 思わない					どちら ともい えない					やや そう 思う					とても そう 思う				
	園数					%					園数					%					園数				
小規模保育所	31					5.4%					60					10.5%					213				
	156					27.2%					114					19.9%									
認可外保育施設	98					7.8%					140					11.2%					420				
	336					26.8%					260					20.7%									
認可保育所	53					2.1%					223					8.8%					524				
	944					37.4%					778					30.8%									
認定こども園	15					1.4%					91					8.5%					205				
	424					39.7%					333					31.2%									
幼稚園	21					1.5%					90					6.4%					247				
	522					37.4%					516					37.0%									
全体	218					3.2%					604					8.9%					1609				
	2382					35.0%					2001					29.4%									

様々な課題

- 対応にあたる人員の不足
- 保育者の専門性の確保
- 保育者の負担の大きさ（バーンアウト）
- 保護者支援・保護者連携
- 専門機関との連携

（笹森・後上・久保山・小林・廣瀬・澤田・藤井, 2010; 松下・田中, 2014）

Cedep保育・幼児教育大規模調査(2015)の テキスト解析結果から読み取れること

- 障がいのある子ども・特別な支援を要する子どもへの対応に関する困難や課題として認識している事柄の自由記述をカテゴリに分類して解析(高橋ほか, 2017)

施設形態	人手不足	保護者との連携	障がいの認定	入園・入所	補助金	他機関連携	グレーゾーン
認可 保育所	504 (40.91%)	487 (39.53%)	103 (8.36%)	55 (4.46%)	57 (4.63%)	48 (3.90%)	42 (3.41%)
認定 こども園	194 (35.99%)	212 (39.33%)	55 (10.20%)	40 (7.42%)	27 (5.01%)	15 (2.78%)	16 (2.97%)
幼稚園	262 (35.26%)	260 (34.99%)	43 (5.79%)	68 (9.15%)	46 (6.19%)	22 (2.96%)	13 (1.75%)
認可外 保育施設	154 (32.49%)	135 (28.48%)	35 (7.38%)	30 (6.33%)	18 (3.80%)	6 (1.27%)	6 (1.27%)
小規模 保育所	65 (35.52%)	36 (19.67%)	10 (5.46%)	6 (3.28%)	2 (1.09%)	3 (1.64%)	5 (2.73%)
カイ2乗値	13.511**	42.398**	10.602*	21.323**	9.929*	9.651*	8.984

インクルーシブ保育の理念・意義

文部科学省初等中等教育分科会（第80回）（2012年）

資料Ⅰ 特別支援教育の在り方に関する特別委員会報告Ⅰ

Ⅰ. 共生社会の形成に向けて

• 理念

- **共生社会の形成**に向けて、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。

※「共生社会」とは（中略）、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。

• 教育的意義

- （中略）特別支援教育を推進していくことは、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものであり、この観点から教育を進めていくことにより、障害のある子どもにも、障害があることが周囲から認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもにも、更にはすべての子どもにとっても、良い効果をもたらすことができるものと考えられる。

保育に関するナショナル・カリキュラムにおける インクルーシブ保育の理念・意義

- 幼児教育要領

第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導

Ⅰ 障害のある幼児などへの指導

- (略) 集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、…

第6 幼稚園運営上の留意事項

- 3 (略) また、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むよう努めるものとする。

- 幼児教育要領解説

(Ⅰ) 障害のある幼児などへの指導

幼稚園は、適切な環境の下で幼児が教師や多くの幼児と集団で生活することを通して、幼児一人一人に応じた指導を行うことにより、将来にわたる生きる力の基礎を培う経験を積み重ねていく場である。

保育に関するナショナル・カリキュラムにおける インクルーシブ保育の理念・意義

• 保育所保育指針

- キ 障害のある子どもの保育については、一人一人の子どもの発達過程や障害の状態を把握し、適切な環境の下で、障害のある子どもが他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう、指導計画の中に位置付けること。また、子どもの状況に応じた保育を実施する観点から、家庭や関係機関と連携した支援のための計画を個別に作成するなど適切な対応を図ること。

• 保育所保育指針 解説

- 保育所における障害のある子どもの理解と保育の展開
 - 子どもたちが共に過ごす経験は、将来的に障害の有無等によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の基盤になると考えられる。
- 個別の指導計画
 - 障害や発達上の課題のある子どもが、他の子どもと共に成功する体験を重ね、子ども同士が落ち着いた雰囲気の中で育ち合えるようにするための工夫が必要である。

SEN児の受け入れが SEN児・他児にもたらすポジティブな効果

- 石井 (2009, 2013)
 - 保育者はSENの受け入れが見本人・クラスの他児それぞれにとって、ポジティブな影響があると認識している
 - ポジティブな影響が感じられている事柄
 - SEN児本人：
 - ✓ 他者に対する興味関心
 - ✓ 他児からの刺激
 - クラスの他児：
 - ✓ 多様性への理解や思いやりが育つ
 - ✓ SEN児への支援を意図したかかわり・環境構成が他児にも良い影響を与えている
 - ただし、ネガティブな影響も認識されている
 - 参加できない活動の時、立ち歩くことが増える など

問い：どのようなクラスの保育者が、 こうした影響を強く感じているか？

1. クラスでの支援・体制のあり方との関連

- 集団活動への参加のあり方や環境構成、加配保育者の存在によって、子どもとの関係性や対応が変化する（木曾，2012）
- 園やクラスでは様々な支援およびそのための体制を構築している（久保山，2009）

☆ただし、クラスでのどのような取り組みが、
保育者のポジ／ネガ影響の認識に影響しているかは
定量的に把握・解析されていない

問い:どのようなクラスの保育者が、こうした影響を強く感じているか？

2. 保育者の保育観・子ども観との関連

- インクルーシブ保育実践において保育観や子ども観が重要な役割を果たすことは多くの研究で指摘されている。
 - ✓ 保育方法や発達・障がいの知識を身につける以上に、子ども観や保育観の変容が求められる(赤松, 2013)
 - ✓ “子どもたちを集団として対象化する保育観や、より早く、より上手に何かができるようになることを目標とする発達観に対して、1人ひとりの子どもが今何を求めているのか、次にどこを目指しているのか、(中略)理解していくことが必要となる。”(石井, 2013)
 - ✓ 保育士5名の半構造化面接に基づくGTA分析から、保育士が保育を子どもに合わせることで子どもの問題が縮小し、困り感が軽減していくこと、そこでは子どもの問題行動の意味を理解したり、個と集団の力動関係を踏まえた保育をする必要があることがわかった(木曾, 2012)
 - ✓ 「参加できる子／できない子」の二項対立的な支配的なまなざしを脱構築する必要がある。丁寧な子ども理解による実践が何より求められる(松井ほか, 2015)

☆しかし、いずれの研究も「インクルーシブ保育の実践➡保育観・子ども観の変容」を扱ったものであり、逆の方向性は検討されていない。

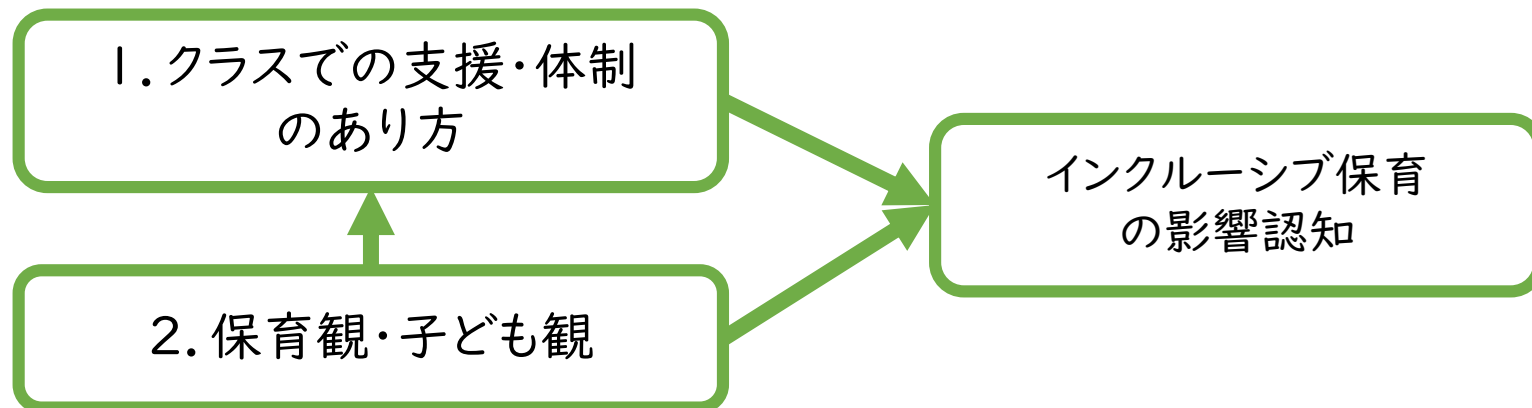
本研究の目的とモデル図

- 「インクルーシブ保育を通じてSEN児・他児の受ける影響」に対する保育者の認識と、

1. クラスでの支援・体制のあり方
2. 保育者自身の保育観・子ども観

との関連を検討する。

3. また、2は1にも影響を与えると想定されるため(例. 木曾, 2012)、2を介した媒介モデルを仮定する



調査方法

- 調査名称：インクルーシブ保育にまつわる保育者調査
- 調査方法：Webモニター調査
 - 株式会社クロスマーケティングの回答画面ならびにモニターを利用
- 対象：保育・幼児教育施設に勤務する現職保育者、離職後3年以内の保育者うち20～69歳までの者
- 初期サンプル数：1200名
 - 離職後3年以内の保育者が少なかった（12名）ため分析から除外
 - 認定の有無にかかわらず、特別な支援を必要とする児が1名以上在籍しているクラスを受け持つフルタイムの保育者335名が解析対象となった
- 実施期間：2019年3月22日～25日

本調査実施にあたり社会福祉法人横浜リハビリテーション事業団の岩佐光章先生をはじめとする皆様に多大なるご助力賜りましたこと、ここに御礼申し上げます。

調査項目（基本属性以外）

- 石井（2009，2013）の項目を利用・一部追加修正した項目

1. SEN児・クラス他児が受ける影響（各22項目）

- 「インクルーシブ保育の中で、障害のあるお子さんが受ける影響についてお聞きします。以下のようなことがあてはまるかどうか、ご自身の考えに最も近いと思われるものに○をつけてください。現在、担当クラスをお持ちの方は、現在の担当クラスについてお答えください。」

2. クラスでの取り組み（24項目）

- 「インクルーシブ保育を実施するにあたり、クラスで行っている配慮や支援について伺います。」

➡「あてはまらない」～「あてはまる」の5段階評定

- 保育者の保育観（中，1996）の一部項目

- 幼稚園教諭と保育所保育士の保育観を検討したもので、対立する2つの考え方のうちどちらを持つか尋ねるもの；A-どちらでもない-B
- 本研究では幼稚園教諭・保育所保育士ともに考え方にバリエーションがよく見られた、意見の分かれた15項目（AもしくはBに15%以上選択されていたもの）を抽出して使用
- かなりA-ややA-ややB-かなりBの4段階で回答

結果

インクルーシブ保育でSEN児本人・他児が受ける影響（因子分析）

- 2因子構造を採用（ポジ／ネガ）
 - SEN児本人の受ける影響の項目例

ポジ影響	・定型発達児から多くの刺激を受けることができる
	・いろいろな子どもと関わる機会が増える
	・日常生活のルールやマナーが身につく
ネガ影響	・発達段階相応の甘えたい気持ちが満たされない
	・孤立してしまう
	・発達のレベルに合った経験ができない

- クラスの他児が受ける影響の項目例

ポジ影響	・困っている人や立場の弱い人への思いやりが育つ
	・障害のある子への支援を意図したかわりの工夫によって、定型発達児にも良い影響がある（話し方を工夫することで、他の子どもにも指示が通りやすくなるなど）
	・お互いの長所や短所を認め合うようになる
ネガ影響	・全員が参加する活動の時間が限られてしまう
	・先生が障害のある子に手がとられ、十分な保育ができない
	・遊びや課題に集中して取り組むことができない場面が増える

結果

クラスでの支援・体制のあり方（因子分析）

・3因子構造を採用

クラス内での 基礎的環境整備	・保育者が他の子への注意、関心やかかわりが不十分にならないように気を付けている
	・障害のある子どもに伝わらないことがあっても、言葉だけで言い聞かせようとはしていない
	・もし他の子どもがその障害のある子どもに対する偏見を示した場合には、適切に対処している
個別の 専門的支援	・障害のある子のための特別の保育カリキュラムを用意する
	・全体の保育内容そのものを障害のある子を意識したものに変わる
	・個別の指導計画を作成している
子ども・保護者への説明と援助要請	・クラスの他の子どもたちに説明して理解を求める
	・保護者に説明して理解を求める
	・まわりの子に援助の方法やタイミングを教える

結果

保育者の保育観・子ども観（因子分析）

・3因子構造を採用（下に比べてどのくらい上を重視するほど高得点）

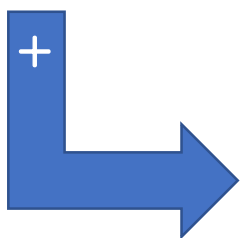
規範・規律を重視する 保育観（仮）	・男の子らしさ、女の子らしさを伸ばすように指導する vs. 男の子も女の子も区別せずに指導する
	・文字や言葉の学習を積極的に進める vs. 文字や言葉の学習は子どもの意欲にまかせる
	・体験の幅は狭くても、一つのことにじっくりと取り組ませた方がよい vs. いろいろ活動に取り組ませ、なるべく幅広い体験を与えた方がよい
子どもの声・主体性を 重視する保育観（仮）	・子どもが自分の気持ちや要求を素直に表現できるように指導する vs. 子どもが互いの気持ちを配慮してゆずりあうよう指導する
	・ケンカが生じた時、子どもに解決をまかす vs. ケンカが生じた時、保育者が直ちに入って解決する
	・子ども自身が遊びを考えたり、ルールをつくって遊ぶのを見守る vs. うまく遊べるように、保育者がルールをつくったり考えたりして方向づける
子どもの個別性を重視 する保育観（仮）	・極端な偏食でなければ、嫌いな食べ物があってもかまわないので無理に食べさせない vs. 嫌いな食べ物であっても栄養バランスをとるためできるだけ食べさせる
	・「いただきます」「ごちそうさま」のタイミングはそれぞれの子どもにまかせる方がよい vs. 「いただきます」「ごちそうさま」のタイミングはクラス全員そろった方がよい
	・クラスのまとまりよりも、一人ひとりの子どものペースを大切にする vs. 一人ひとりの子どものペースよりもクラスのまとまりを大切にする

結果のまとめと考察

I. 「クラス内での基礎的環境整備」の重要性

- SEN児本人・クラスのお友達がインクルーシブ保育からポジティブな影響を受けているという認知と関連

クラス内での 基礎的環境整備 (項目例)	・保育者が他の子への注意、関心やかかわりが不十分にならないように気を付けている
	・障害のある子どもに伝わらないことがあっても、言葉だけで言い聞かせようとはしていない
	・もし他の子どもがその障害のある子どもに対する偏見を示した場合には、適切に対処している



ポジ影響 SEN児	・定型発達児から多くの刺激を受けることができる
	・いろいろな子どもと関わる機会が増える
	・日常生活のルールやマナーが身につく

ポジ影響 他児	・困っている人や立場の弱い人への思いやりが育つ
	・障害のある子への支援を意図したかかわりの工夫によって、定型発達児にも良い影響がある(話し方を工夫することで、他の子どもにも指示が通りやすくなるなど)
	・お互いの長所や短所を認め合うようになる

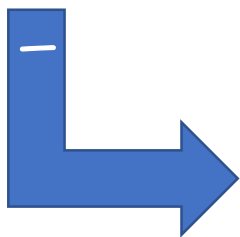
結果のまとめと考察

II. 保育者のもつ保育観の重要性

1. 「子どもの声・主体性を重視する」保育観

- SEN児本人・クラスの他児がインクルーシブ保育からネガティブな影響を受けているという認知を直接低くする効果をもっていた

子どもの声・主体性を重視する保育（仮）	・子どもが自分の気持ちや要求を素直に表現できるように指導する vs. 子どもが互いの気持ちを配慮してゆずりあうよう指導する
	・ケンカが生じた時、子どもに解決をまかす vs. ケンカが生じた時、保育者が直ちに入って解決する
	・子ども自身が遊びを考えたり、ルールをつくって遊ぶのを見守る vs. うまく遊べるように、保育者がルールをつくったり考えたりして方向づける



ネガ影響 SEN児	・発達段階相応の甘えたい気持ちが満たされない
	・孤立してしまう
	・発達のレベルに合った経験ができない
ネガ影響 他児	・全員が参加する活動の時間が限られてしまう
	・先生が障害のある子に手がとられ、十分な保育ができない
	・遊びや課題に集中して取り組むことができない場面が増える

結果のまとめと考察

II. 保育者のもつ保育観の重要性

1. 「子どもの声・主体性を重視する」保育観

- ・クラス内での基礎的環境整備を介して間接的に、SEN児本人・クラスの他児がインクルーシブ保育からポジティブな効果を受けているという認知を高める効果をもつ

子どもの声・主体性を重視する保育(仮)	・子どもが自分の気持ちや要求を素直に表現できるように指導する vs. 子どもが互いの気持ちを配慮してゆずりあうよう指導する
	・ケンカが生じた時、子どもに解決をまかす vs. ケンカが生じた時、保育者が直ちに入って解決する
	・子ども自身が遊びを考えたり、ルールをつくって遊ぶのを見守る vs. うまく遊べるように、保育者がルールをつくったり考えたりして方向づける

+

クラスでの
基礎的環境整備

+

ポジ影響 SEN児	・定型発達児から多くの刺激を受けることができる
	・いろいろな子どもと関わる機会が増える
	・日常生活のルールやマナーが身につく
ポジ影響 他児	・困っている人や立場の弱い人への思いやりが育つ
	・障害のある子への支援を意図したかわりの工夫によって、定型発達児にも良い影響がある(話し方を工夫することで、他の子どもにも指示が通りやすくなるなど)
	・お互いの長所や短所を認め合うようになる

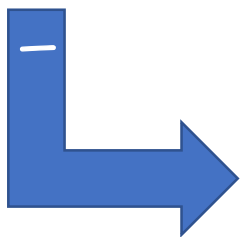
結果のまとめと考察

II. 保育者のもつ保育観の重要性

2. 「規範・規律を重視する」保育観との相性の悪さ

- SEN児本人・クラスの他児がインクルーシブ保育からポジティブな影響を受けているという認知を直接低くする効果をもっていた

規範・規律を重視する 保育(仮)	・男の子らしさ、女の子らしさを伸ばすように指導する vs. 男の子も女の子も区別せずに指導する
	・文字や言葉の学習を積極的に進める vs. 文字や言葉の学習は子どもの意欲にまかせる
	・体験の幅は狭くても、一つのことにじっくりと取り組ませた方がよい vs. いろいろな活動に取り組ませ、なるべく幅広い体験を与えた方がよい



ポジ影響 SEN児	・定型発達児から多くの刺激を受けることができる
	・いろいろな子どもと関わる機会が増える
	・日常生活のルールやマナーが身につく
ポジ影響 他児	・困っている人や立場の弱い人への思いやりが育つ
	・障害のある子への支援を意図したかわりの工夫によって、定型発達児にも良い影響がある(話し方を工夫することで、他の子どもにも指示が通りやすくなるなど)
	・お互いの長所や短所を認め合うようになる

結果のまとめと考察

II. 保育者のもつ保育観の重要性

2. 「規範・規律を重視する」保育観との相性の悪さ

- ・クラスでの基礎的環境整備の低さを介して間接的に、SEN児本人・クラスのお友達がインクルーシブ保育からポジティブな影響を受けているという認知を下げる効果をもっていた

規範・規律を重視する 保育(仮)	・男の子らしさ、女の子らしさを伸ばすように指導する vs. 男の子も女の子も区別せずに指導する
	・文字や言葉の学習を積極的に進める vs. 文字や言葉の学習は子どもの意欲にまかせる
	・体験の幅は狭くても、一つのことにじっくりと取り組ませた方がよい vs. いろいろな活動に取り組ませ、なるべく幅広い体験を与えた方がよい



クラスでの
基礎的環境整備



ポジ影響 SEN児	・定型発達児から多くの刺激を受けることができる
	・いろいろな子どもと関わる機会が増える
	・日常生活のルールやマナーが身につく
ポジ影響 他児	・困っている人や立場の弱い人への思いやりが育つ
	・障害のある子への支援を意図したかわりの工夫によって、定型発達児にも良い影響がある(話し方を工夫することで、他の子どもにも指示が通りやすくなるなど)
	・お互いの長所や短所を認め合うようになる